



TITLE:

1 乞指針其他コンサルティション
(第Ⅱ部症例検討会)(京都大学結核
胸部疾患研究所昭和 42 年度学術講
演会)

AUTHOR(S):

前川, 暢夫; 寺松, 孝; 大島, 駿作

CITATION:

前川, 暢夫 ...[et al]. 1 乞指針其他コンサルティション(第Ⅱ部症例検討会)(京都大学結核胸部疾患研究所昭和 42 年度学術講演会). 京都大学結核胸部疾患研究所紀要 1968, 1(1/2): 259-259

ISSUE DATE:

1968-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/52403>

RIGHT:

で、手間が非常にはぶける。

また、ヘパリン血を用いない無血充填による人工心肺回路は、ヘマセルと糖液で充填するのであるから、準備は簡易化される。

以上の二点から、Travenol 型, disposable bubble sheet oxygenator とその回路セットを用い、人工心にはローラー型を使用し、ポンプ時間2時間以内であれば、無血充填にて安全に実施出来ることを種々の実験並びに臨床的研究により実証した。

次の問題は、長時間体外循環を行なう場合には、時に腎障害を惹起する症例があることから、ローラー型人工心の場合における病態生理学的検討を行なった。人工心肺回転中の血圧は60～40 mmHg で、所謂ショック状態において手術が行なわれていることになる。この状態におい

て2時間以上の長時間に亘って体外循環が続けば、一過性の腎障害が不可逆性になる症例のあることは当然である。

このことから、ローラー型人工心ではなく有弁性拍動型人工心の必要性を痛感し、その製作を行なった。現在まで、われわれと同様の考え方から拍動型人工心が種々製作されてはいるが、何れも disposable でないため、有弁性の人工心の消毒、清掃などに非常な時間がかかり、その必要性を認めながらも、実用化されるに至っていない。

われわれの disposable pulsatile pump について、実験的並びに臨床的にも応用して、その有用性を認めているので、これらの点について報告した。

第 II 部 症例検討会

1 乞指針其他コンサルティション

(司会者：前川 暢夫, 寺松 孝, 大島 駿作)

岡田 長保(兵庫県)：肺癌を母体とせる肺化膿症兼肋膜炎の2例について

由本 伸(三菱神戸病院)：両側肺炎に左肋膜炎(血性滲出液を得たが、癌細胞陰性)を併発、現在左下野に塊状影の残存する例

岡田 彰(滋賀県)：1) 両側肺気腫例の外科

的適応について、2) 両側肺野にみられた慢性肺炎例

西村儀一郎(舞鶴市民病院)：左縦隔肋膜炎を思わせる小児の1例

貞鍋 貴(岐阜市民病院)：筋無力症を伴わない胸腺腫の1例

2 稀少例其他症例報告

(司会者：西岡 諄, 吉田 敏郎, 岡田 慶夫)

中村 健(新香里病院)：巨大空洞により発見され、急速な経過を示した肺多形細胞癌の1症例

大井 豊(阿武山日赤病院)：比較的急速な進展を示した肺癌の1症例

浅田 高明(近江サナトリウム)：1) Uremic lung(bat-wings shadow), 2) Arterio-venous

fistula

久保 克行(三重県立大学医学部)：1) 巨大な縦隔結核腫の1例, 2) 右側肺 sequestration の1例, 3) 気管腺腫(cylindroma) の1例
大橋 啓吾(三重県立大学医学部)：縦隔結核腫の1例

池田 貞雄(京都大学結核胸部疾患研究所)：2